

赤山地下壕跡の構造と見学コース

[H16.4.1より一般公開]



館山駅～赤山地下壕跡ご案内



Welcome to Tateyama

館山市指定史跡

(2005.1.27)

館山海軍航空隊 赤山地下壕跡



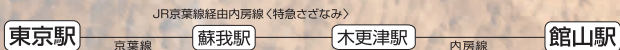
壕内の照明は太陽光発電を利用しています

地下壕内では、次のことを守って下さい。

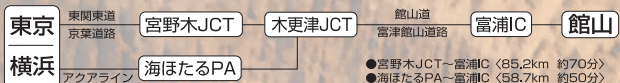
- ヘルメットを必ず着用して下さい。
- 危険物等を持ち込まないで下さい。
- 飲食、喫煙、火気使用はしないで下さい。
- 足元に気をつけて見学して下さい。
- 施設等は大事に扱って下さい。
- 他の人の迷惑にならないようにして下さい。
- 非常の場合は速やかに避難して下さい。
- 小学生以下の方には、付き添い人が必要です。
- 管理上支障があると認められる方の入壕をお断りする場合があります。

交通のご案内

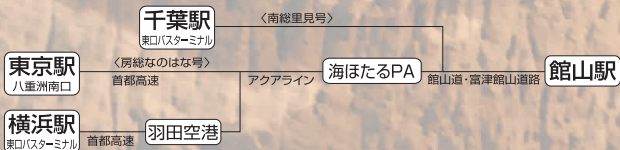
● JR



● お車

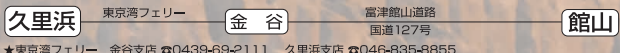


● 高速バス



★「千葉行」館山日東バス ☎0470-22-0111 日東交通館山営業所 ☎0470-23-2711
 京成バス ☎0474-434-5588
 ★「東京行」JRバス関東館山支店 ☎0470-22-6511 日東交通館山営業所 ☎0470-23-2711
 ★「横浜・羽田空港行」日東交通館山営業所 ☎0470-23-2711 京浜急行バス ☎03-3741-4255

● フェリー



- ★入 壕 料：一般 200円／小・中・高校生 100円
- 【団体（20名以上）】一般 150円／小・中・高校生 50円
- 【市立博物館との共通観覧券】一般 400円／小・中・高校生 150円
- ★休 壕 日：毎月第3火曜日及び年末年始（12月29日～1月3日）
- ★開壕時間：午前9時30分～午後4時
 （受付は午後3時30分まで）
- ※団体の方は事前予約をお願い致します。
- ★予約・お問合せ：豊津ホール 〒294-0033 千葉県館山市宮城192-2
 TEL 0470-24-1911
- ★お問合せ：生涯学習課 〒294-0045 千葉県館山市北条740-1
 TEL 0470-22-3698
- ※ガイドはNPOが有料でおこなっています。

ご入壕のみなさまへ

この施設は、たいへん貴重な歴史遺産です。
 ルールを守って、後世に伝えていきましょう。

- Q：壁の表面は、どうなっているのかな？
- Q：壕の中と外では、温度や湿り気はどのように違うのかな？
- Q：壕の中の明るさは、外と比べてどのくらい暗いのだろう？

館山市内の主な戦争遺跡

幕末（江戸時代の終りの頃）から、太平洋戦争が終わった1945（昭和20）年まで、東京湾の入口にある館山は、国の中心である東京（江戸）を守るための重要な場所でした。

そのため館山には、砲台跡や海軍航空隊などの戦争遺跡が、今でも数多く残っています。

1. 東京湾要塞

日本の近代化がはじまった明治時代。当時の政府にとって、外国の軍艦の侵入から首都東京を守ることが、重要なことでした。そのため、当時の陸軍は、東京湾岸にたくさんの砲台を築きます。こうして東京湾要塞が完成し、砲台のネットワークがつくられ、館山市内には、洲崎第1砲台（1932年完成）、洲崎第2砲台（1927年完成）、北側の南房総市富浦町に大房岬砲台（1932年完成）がつけられました。

2. 館山海軍航空隊

第1次世界大戦（1914～1919年）では、飛行機などの、それまでの戦争にはなかった機械が、兵器として使われました。

そして、1930（昭和5）年、海軍5番目の実戦航空部隊として、館山海軍航空隊がつけられました。それから、1945（昭和20）年の終戦までの間、館山市香から沼にかけての1帯には、航空機の修理、部品の補給などをおこなった第2海軍航空廠館山補給工場、食糧・衣服・燃料などを補給した横須賀軍需部館山支庫関係の施設など、さまざまな軍事施設がつけられました。旧館山海軍航空隊の基地（写真1）は、現在、海上自衛隊館山航空基地（写真2）として使われています。



写真1 / 旧館山海軍航空隊司令部。写真2のように今でも立派に使われている



写真2 / 海上自衛隊館山航空基地司令部。後ろの山が、地下壕跡が残る赤山



写真3 / 赤山地下壕跡内の地層



写真4 / 地層のずれを観察できる

3. 館山海軍砲術学校・洲ノ崎海軍航空隊

館山海軍砲術学校は、1941（昭和16）年6月、陸上における対空射撃や陸戦隊関係の戦術を教育する機関として、今の館山市佐野に開校されました。

洲ノ崎海軍航空隊は、1943（昭和18）年に、館山海軍航空隊に隣接する館山市笠名から大賀にかけての1帯に開隊されました。実戦航空隊である館山海軍航空隊に対して、こちらは航空兵器整備のための航空隊で、射爆・無線・写真・光学・魚雷・電探などの課程が置かれていました。

このように館山には、陸軍・海軍の施設のほか、2つの教育機関がありました。さまざまな種類の軍事施設があった場所は、わが国のなかでも例が少ないと言われています。

館山海軍航空隊赤山地下壕跡とは？

赤山地下壕跡は、合計した長さが約1.6kmと、全国的にみても大きな壕で、館山市を代表する戦争遺跡の一つです。

いつ頃つくられたの？

今のところ赤山地下壕に関する資料が、ほとんどないため、はっきりしたことはわかりません。しかし、このように大きな地下壕が1941（昭和16）年の太平洋戦争の前につくられた例はなく、当時の軍部が本格的に防空壕をつくりはじめたのは、1942（昭和17）年より後であることが、他地域の壕の建設時期からわかります。

また、全国各地につくられた大きな地下壕の壕と壕の間の長さは、一般的には10～20m以上（長野市松代大本営予定地の象山地下壕は25m）であるとされていますが、

この赤山地下壕は5～10mと狭い上、平面図を見ても、計画的に掘られたとは考えにくい構造です。昭和10年代のはじめにひそかに建設工事がはじまったという説もありますが、1944（昭和19）年以降に、館山海軍航空隊の兵隊たちによって、壕が掘りはじめられたという複数の証言があります。

1945（昭和20）年8月15日の終戦の日まで、壕の建設工事がおこなわれていたという証言もあることから、未完成であることは確かです。

どのように使われたの？

アメリカ軍の空襲が激しくなった太平洋戦争の終りの頃、この赤山地下壕の一部が、館山海軍航空隊の防空壕として使われていたことは、壕内にある発電所跡や、終戦間際に、この壕の中で実際に館山海軍航空隊の事務をおこなったという体験や、病室や電信室があったなどの証言からうかがい知ることができます。